

「木場の窓から見えるもの(元外交官の視点)」

当社顧問石井正文氏(前駐インドネシア日本国大使)による
気になる海外情報を原則第2、第4木曜日に配信しています。

第44回:インドネシア大統領選挙;2023年2月現在の現状報告 2023年3月9日配信

【ポイント】

- 2月22日～25日、2年振りにジャカルタ訪問
- 現下の最大の関心事項の一つは来年2月14日投票の次期大統領選挙の行方
- 人気トップ3の内、アニス前ジャカルタ州知事(53歳)とガンジャル中部ジャワ州知事(54歳)の一騎打ちになるとの見方が主流
- 今後、10月の正副大統領候補擁立開始に向けた各種合従連衡に要注目
- 日本は、どちらの候補が来ても基本的に大丈夫

【本文】

- 2月22日～25日、大使の任期を終えて帰国してから初めて、2年振りにジャカルタを訪問
 - ・コロナは名実ともに落ち着き、昨年の成長は5.6%で経済も好調。町も活発で綺麗
 - ・日本が作った地下鉄MRTは好調。市の中心部に完工した「森ビル」も人気スポットに
 - ・一方、渋滞はコロナ前に逆戻り
- 現下の最大の関心事項の一つは来年の次期大統領選挙の行方。選挙制度概略は次の通り
 - ・日程;
 - 2024年2月14日投票予定(議会選挙も同日)
 - 決戦投票が実施される場合は6月26日投票
 - 10月20日に大統領就任式を予定
 - ・当選の条件;
 - 過半数票獲得+全37州の過半数の州で20%以上得票があること
 - 第1回投票で過半数がない場合、上位2ペアで決選投票
 - ・候補擁立の条件;
 - 国会議席20%以上か先の総選挙での得票率25%以上を有する政党又は政党連合による擁立が必要
=人気だけではダメ
 - 正副大統領のペアで立候補(米国大統領選と同じ)
 - 候補擁立は本年10月開始予定=それまで合従連衡が続く
 - ・今回は現職候補の居ない選挙;
 - 憲法上2期10年が上限=ジョコウィ現大統領不出馬

■最近の世論調査で20%台を得ているトップ3候補

- ・プラボオウ国防大臣(1951年10月17日生 71歳);
-過去2回の大統領選挙でジョコウィに敗北。現在は政権入り
- ・アニス前ジャカルタ州知事(1969年5月7日生 53歳);
-ジョコウィ第1期内閣で教育文化相在職中に州知事選に立候補し、ジョコウィ子飼いの現職アホック知事を破り当選。その過程でイスラム主義勢力の支持を得ることに
- ・ガンジャル中部ジャワ州知事(1968年10月28日生 54歳)
-ジョコウィ大統領も所属する最大与党闘争民主党(PDIP)出身。一貫してトップ人気
- ・なお、他にも、プアン国会議長(49歳; PDIP党首メガワティ元大統領の実娘)、アイルランガ経済調整大臣(60歳; 与党第二党ゴルカルの党首)等の名前も挙がるが、人気は低迷

■注目点と見通し

- ・アニス前ジャカルタ州知事とガンジャル中部ジャワ州知事の一騎打ちとの見方が主流
-プラボオウ国防大臣(71歳)は、平均年齢32歳のインドネシアでの当選は困難か
- ・最大の注目点は、PDIPが誰を党の候補にするか
-党首かつキングメーカーのメガワティ元大統領は(亡夫の遺言でもある)実娘のプアン出馬をなかなか捨てきれないが人気低迷。いずれガンジャルに変えるかどうか?
-メガワティはPDIP候補発表を6月初めと表明している
- ・ジョコウィ大統領は自分のレガシーを維持してくれる候補(=ガンジャル)を選好か
-アニスに対しては、ジャカルタ州知事選挙の際に「裏切られた」という経緯
-前ジャカルタ州知事のアニスは、現時点ではジョコウィ推進の首都移転には慎重
- ・ペアで闘う副大統領候補の選択も広大な国土で幅広く支持を得る上で重要
-アニス陣営; アグス民主党党首(44歳。ジョコウィの前のユドヨノ大統領息子)、コフィファ東ジャワ州知事(57歳。東部で根強い人気+女性)等?
-ガンジャル陣営; エリック・トヒル国営企業相(52歳。サッカー協会会長選出で人気沸騰)、アイルランガ経済調整相(60歳。与党第2党党首)等?
- ・今後の10月の正副大統領候補擁立開始まで、種々の合従連衡が続く

■日本にとって重要なのは、どちらの陣営が来ても大丈夫な立ち位置を維持すること

- ・これまで積み重ねてきた両者との関係に鑑みれば、それは十分可能

(以上)

りそな総合研究所 顧問 石井正文

問い合わせ先: りそな総合研究所 アジア室 石橋修三

メールアドレス: shuzo.a.ishibashi@rri.co.jp